

ほうれん草

排水不良の所や酸性土壌だと立ち枯れが出やすいので、畑の準備は入念に。

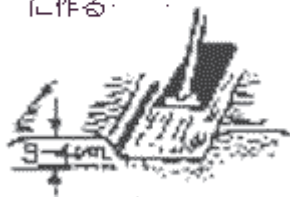


早めに畑全面に完熟堆肥と石灰をまいて耕しておく。



秋蒔き時は台風シーズンなので、ところどころに、溝を作り、畑全体の排水対策をしておく。

蒔き溝は底面に凹凸ができないよう丁寧に作る。



蒔きした後、1～1.5cmくらいの厚さに覆土する。



ほうれん草の上手な育て方

9月に入り、朝夕涼しさを感じるようになると、ほうれん草の種蒔きの好適記です。

【方法】ほうれん草は酸性土壌にたいへん弱く、また排水不良になると根腐れを生じやすい野菜です。

そのため、栽培予定地にはなるべく早めに前作を片付け、畑全体に完熟堆肥（ヤシガラ、腐葉土で代替可能）と消石灰（苦土石灰でも可）をばらまき、15cmくらいの深さによく耕しておきます。

種蒔きに当たっては、蒔き溝を掘り、少量の化学肥料と油粕を元肥として溝にばらまき、4～5cmの厚さに土を覆い、溝の底面がきれいに平らに（凹凸がないように）なるようにクワを細かく動かして丁寧に蒔き溝を作ります。

種蒔きの後の覆土は1～1.5cmの厚さにし、軽い土壌の畑では、覆度した土の上からクワの背中で軽く鎮圧しておきます。

激しい降雨の後には、肥料が流出し畑の表面が堅くなります。雨が上がり畑作業ができるようになったら、畝間に化学肥料をばらまき、軽く中耕して土壌中に空気と栄養を送り込みましょう。